

東風

HARUKAZE

令和2年8月24日発行

2学期始業式での4名の代表生徒のこぼれ

予め万が一に備える意識

言語・安全文化

8月17日の2学期始業式では、4名の代表生徒の皆さんが力強い決意・目標を述べてくれました。

1年生代表

- ・1学期、リーダーがあきらめないことの大切さに気付いた。
- ・距離を保ちながら「つながる言葉」「つながる行動」を心掛けると、目標を述べてくれました。

2年生代表

- ・1学期、言葉への考え方が温かくなった。
- ・3年生を支え、1年生のお手本となれる「たおやか」2年生をめざしましょうと、呼び掛けてくれました。「たおやか」とは“しなやかで優しいさま”という意味があります。

3年生代表

- ・1学期、3年生はみんな自分のやるべきことをひたむきに遂行していた。
(本当にそう思います。この短いフレーズにすべてが凝縮しています。)
- ・互いの進路を尊重し、支え合う学年になると、決意を述べてくれました。

生徒会代表

- ・「励まし合おう・応援し合おう」を合言葉に、1学期に引き続き感染予防をしましょう。
- ・そして、挨拶の輪を広げようと、抱負を述べてくれました。これは「挨拶し合おう」ということです。これこそ、今、我々が大切にしている「つながる言葉、つながる行動」であると思います。

4名の代表の皆さんは共通して、「定期考査や学力調査、学校行事がある2学期だからこそ、自助・共助の意識を高めたい」と力強く述べてくれました。



2学期を迎えるにあたり二つの目標を設定しました。

ひとつ 2学期は自己ベストをめざそう！

8月・11月に定期考査、9月に※1学力調査、10月以降に学力分析テストが予定されています。2学期は、自己ベストへの「挑戦の時間」を設けます。学級で「勉強をする」という、当たり前だけでも、とても貴重な時間を積み重ね、生徒の皆さんには自己ベストをめざしてほしいと思います。

ふたつ 学校行事を実現し、成し遂げよう！

※2 8月23日現在の数字

「万が一に備える」という言葉あります。10000分の1、つまり0.01%の確率に備えるという意味です。東中は、防災活動拠点として、減災・縮災をキーワードに、特に総合的な学習の時間で、事前に備える学習を積み重ねています。福岡県では、累計で、※2 10000人に7.6名の確率でコロナウイルス感染が確認されています。万が一より高い確率で、全国で4番目に高い数字です。

防災を学ぶ私たち、自助・共助の精神を大切に私たちだからこそ、万が一に備える事前の取組として、感染対策の意識と緊張感を、もうワンランク上げる確認をしました。

- ・飛沫が飛ばない話し方をしましょう。
- ・手洗い・消毒を徹底し、顔を触らないようにしましょう。
- ・体調に違和感があるときは、すすんで自宅待機をしましょう。(オンラインで家庭と繋がります)
- ・仲がよくても、最低1メートルの距離を必ずとりましょう。
- ・偏見や差別をこの学校から撲滅し、心をつなげていきましょう。



『NO TOUCH NOT ALONE』(近づかないけど、一人にはしない)

ブロックリーダーが示したこの精神と、予め万が一に備える意識と緊張感で、勉強の自己ベスト更新と、学校行事の実施を、生徒・教職員一丸となって、ぜひ成し遂げていきたいと思っています。

